

上総かみつふさの末すえの珠名娘たまなをとめ子を詠よむ一首 并あはせて

短歌たんか

一七三八番

しなが鳥とり 安房あはに継つぎたる 梓弓あづさゆみ 末すえの珠名たまなは  
胸別むなわけの 広ひろき我妹わぎも 腰細こしほその すぐる娘をとめ子の その  
姿かほの きらきらしきに 花はなの如ごと 笑あみて立たてれば  
玉梓たまほこの 道行みちゆき人は 己おのが行ゆく 道みちは行ゆかずて  
呼よばなくに 門かどに至いたりぬ さし並ならぶ 隣となりの君きみは  
あらかじめ 己妻おのづまか離ちれて 乞こはなくに 鍵かぎさへ奉まっ  
る 人皆ひとみなの かく迷まよへれば うちしなひ 寄よりて  
そ妹いもは たはれてありける

反歌はんか

一七三九番

金門かなとにし 人ひとの来き立てば 夜中よなかにも 身みはたな知し  
らず 出いでてそあひける